目　次

序論　言語政策とは何か ..... 木村護郎クリストフ　1

1. はじめに　1
2. 言語政策の定義　2
3. 政策対象としての言語　3
4. 言語政策研究の発展　7
5. 言語政策の再定義の試み　11
6. 言語政策の課題の変遷　15
7. まとめ　17

第 1 部　言語政策の基礎

第 1 章　「言語政策概念」の多様さ ..... 西島　佑　22

1. はじめに　22
2. マクロ・アプローチの時代 ── 1950 年代～　23
3. ミクロ・アプローチの登場と現在 ── 1990 年代～　27
4. おわりに ──「言語政策概念」の今後　31

第 2 章　言語の地位 ..... 山川和彦　34

1. はじめに　34
2. 国家語とその役割の変化　35
3. 地域公用語と言語の地位　37
4. 日本国内における地域語の位置付け ── 石垣市を事例として　39
5. 観光文脈での言語の地位　41
6. まとめ　42

column 沖縄県における地域言語の衰退と再生 ..... 石原昌英　44

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 3 章　言語の近代化と標準化をめぐる言語政策 ..... 原　隆幸　46

1. はじめに　46
2. 言語計画と実体計画　46
3. 成文化、標準化、近代化、言語改良など　47
4. 日本における実体計画　53
5. まとめ　55

第 4 章　異言語間コミュニケーション
── グローバル化時代に求められる言語政策の特徴
.....サウクエン・ファン　56

1. はじめに　56
2. いわゆる「相互理解度」　57
3. 国勢調査の盲点　58
4. 言語問題の時代性　59
5. グローバル化時代に求められる言語政策の 2 つの事例　62
6. まとめ　65

第 2 部　言語問題のプロセス

第 1 章　出発点としての言語問題 ..... 高　民定　68

1. はじめに　68
2. 言語問題をめぐる議論　69
3. 言語問題の範囲と出発点　70
4. 言語問題処理の 2 つのレベル　72
5. 言語問題における当事者　74
6. 当事者の問題から政策課題へ── 言語教育を例に　75
7. おわりに── 言語教育施策から社会参加のための支援施策へ　76

column 外国人住民の生活に現れた言語問題と、多文化共生施策
..... 金子信子　78

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 2 章　政策課題から政策決定へ..... 上村圭介　80

1.　はじめに　80
2.　政策問題における複雑性　81
3.　政策に求められる知識　82
4.　政策過程の諸段階　83
5.　政策決定の分析　86
6.　まとめ　88

第 3 章　政策の設計と実施..... 上村圭介　90

1.　はじめに　90
2.　政策の階層性　91
3.　政策実施のための手段　92
4.　資源交換としての政策　94
5.　言語政策の横の広がり　97
6.　まとめ　98

第 4 章　言語政策の評価.....嶋津　拓　100

1.　はじめに　100
2.　言語政策と評価　101
3.　企業の言語政策　103
4.　独立行政法人の言語政策　105
5.　まとめ　108

第 3 部　言語政策研究の方法

第 1 章　学際研究としての言語政策研究と研究上の課題.....村岡英裕　112

1.　学際研究としての言語政策研究とは　112
2.　研究上の諸課題　113

第 2 章　質的研究法としての事例研究.....福永由佳　116

1.　はじめに　116

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

2.　事例研究とは　117
3.　事例研究の実際　120
4.　まとめ　122

第 3 章　地域研究……杏掛沙弥香　124
1.　はじめに　124
2.　研究対象　125
3.　研究内容　126
4.　研究方法　127
5.　研究事例紹介――タンザニアの言語政策研究　128
6.　まとめ　131

第 4 章　比較研究……貞包和寛　132
1.　はじめに　132
2.　比較研究の事例　133
3.　比較研究の展望――席次計画分析における比較研究の可能性　136
4.　まとめ　139

第 5 章　量的研究……寺沢拓敬　140
1.　はじめに　140
2.　大量観察ではじめてわかること　141
3.　一般化＝母集団推測　143
4.　因果推論　143
5.　量的研究が扱う言語政策的トピック　144
6.　研究手法　145
7.　まとめ　147

第 4 部　言語政策研究の最前線

第 1 章　言語と国際標準……井佐原均　神崎享子　150
1.　はじめに　150

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

2.　国際標準化　151
3.　言語の標準化　154
4.　おわりに　157

第 2 章　外国語教育 ..... 下絵津子　158
1.　はじめに　158
2.　近代教育における外国語教育政策の形成　159
3.　戦後教育における外国語教育政策形成におけるアクター　161
4.　外国語教育政策に関するこれまでの研究　163
5.　おわりに　164

column　高校の英語教科書と国際英語 ..... 中川洋子　167

第 3 章　社会統合のための多言語主義・複言語主義 ..... 西山教行　169
1.　はじめに　169
2.　多言語主義　169
3.　複言語主義　172
4.　社会統合のための多言語主義と複言語主義　175
5.　まとめ　176

第 4 章　言語権と少数言語コミュニティ ..... 杉本篤史　177
1.　はじめに　177
2.　日本国内における人権アレルギーの問題　178
3.　国際人権法における言語権概念　179
4.　言語権の日本国内法へのローカライズの問題　181
5.　日本の少数言語の状況　182
6.　まとめ　184

第 5 章　言語サービス ..... 岩田一成　185
1.　はじめに　185
2.　外国人住民調査の結果　186

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

3.　情報発信における言語選択　186
4.　言語サービスと課題　189
5.　まとめ　194

第 6 章　外国人移住者と日本語教育 ……松岡洋子　195
1.　はじめに　195
2.　外国人材受入れ施策の展開とその背景　196
3.　外国人移住者を取り巻く日本語教育施策の動向　197
4.　移住者の第二言語教育の在り方　199
5.　外国人移住者受入れのための言語教育政策としての日本語教育の在り方　200
6.　まとめ　201

column　地域日本語教育の制度設計……神吉宇一　203

第 7 章　継承語教育 ……落合知子　205
1.　はじめに　205
2.　母語教育、継承語教育その用語と歴史的展開　206
3.　継承語教育の意義と重要性　209
4.　今後の課題　211
5.　まとめ　212

column　言語内部の多様性から考える継承語教育 ……中川康弘　214

第 8 章　異文化接触 ……加藤好崇　216
1.　はじめに　216
2.　観光接触場面とやさしい日本語　217
3.　やさしい日本語の習得計画　218
4.　まとめ　223

column　外国人移住者の言語リソースとしての日本語の管理
……今　千春　224

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 9 章　コミュニティ・レベルの言語政策.....猿橋順子　226

1.　はじめに　226
2.　コミュニティ・レベルの言語政策と少数派のエンパワーメント　227
3.　飲食店の言語政策的な営み　228
4.　国際的なフェスティバルの言語政策的な営み　230
5.　コミュニティ・レベルの言語政策研究の意義と方法　232
6.　まとめ　233

column 談話研究からコミュニティの言語政策や人材育成へ
.....村田和代　234

第 10 章　差別と言語.....岡本能里子　236

1.　はじめに　236
2.　問題の所在　237
3.　メディアを通して配信された差別問題　237
4.　差別に関する法整備状況　240
5.　性差別や排除をなくすための言語教育の課題　240
6.　まとめと今後の課題　242

column「敵意の言説」を分析し、対抗言説の可能性を探る
.....山本冴里　245

おわりに.....247
参考文献.....249
索　引.....263
執筆者一覧.....270

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

序 論

言語政策とは何か

木村護郎クリストフ

ねらい

言語政策研究という学問領域は、どういう現象を対象としているかを述べる。言語政策の定義および政策対象としての言語の特徴を検討したうえで、言語政策研究の発展をふりかえり、現状を把握する。最後に、近代国家形成とグローバル化それぞれと言語のかかわりをふまえて、今後の課題を展望する。

キーワード

言語の人為性、言語管理、公共政策、言語的近代化、グローバル化

1. はじめに

「言語政策」というと何を思い浮かべるだろうか。「言語」についての「政策」なので、とりあえず、国などが言語についてのなんらかの取りくみをおこなうことを想定することができるだろう。とはいえ、具体的にどのようなことをするのか、ぴんとこないかもしれない。少なくとも日本では、「言語」が主要な政策課題に含まれているようにはみえない。政府では、法務、財務、経済産業、環境、外交、防衛といった主要政策分野にそれぞれ大臣が任命され、さらに、少子化対策、地方創生、水循環といった各大臣の担当分野が割り当てられているが、「言語大臣」はいないし、閣僚の担当分野をみても、「言語」は見当たらない。一方、省庁をみると、文部科学省には「**外国語教育**」を担当する初等中等教育局教育課程課外国語教育推進室があり、また文化庁国語課には「**国語施策・日本語教育**」を担当する国語課がある。政府、省庁でのこのような分野や部署としての位置づけをみると、「言語」は数多くの政策分野のなかでも狭い領域にすぎないように思われる。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第2部
言語問題のプロセス

第2部の各章は、私たちの社会に言語問題が発生し、それに対する人為的な介入が完了するまでという、政策の「ライフサイクル」の観点で、言語政策をとらえるものである。

第1章では、発生した言語問題をめぐる実態と認識のずれや、言語問題の範囲やレベルといった観点から政策課題の設定の問題を扱う。さらに、言語問題の「当事者」と言語政策の関わりについて述べる。

第2章では、言語政策を、政策の内容ではなく、政策の決定の過程に注目してとらえるための、いくつかの枠組みについて述べる。

第3章では、目的・目標・手段といった階層性のなかで、実施のための手段や、そこに投入される資源という観点から言語政策をとらえる。

第4章では、政策のサイクルが完了したのちに、その政策の成果や効果を、所期の目的や目標と照らして検証する段階、つまり評価の段階について論じる。

また、コラムでは、金子信子先生に外国人住民の社会参加に求められる「リテラシー」の問題についての研究を紹介していただいた。

言語政策研究は、言語研究に固有の問題を扱うのと同時に、政策研究に共通する問題を扱うものでもある。研究によって得られた知見を、実際の言語問題の解決に役立つものにするためにも、また、他の分野の政策研究との間で相互参照可能なものにするためにも、今後の言語政策研究の範囲が広がることが期待される。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第2章
政策課題から政策決定へ

上村圭介

ねらい

政策研究では、政策がどのような理念や目的の実現を目指すか、そのためにどのような手段を講じるかといった政策の内容を対象にするものと、政策がどのような流れの中で、どのような要因の影響を受けて決定されるかといった政策のプロセスを対象にするものとがある。言語政策の研究では、政策の内容と同時に、政策が決定されるプロセスにも注目する必要がある。

キーワード

政策の流れ、政策過程、政策アジェンダ、in の知識、of の知識、言語問題

1. はじめに

「言語政策」という用語は、多義的に使われる。序章で述べられるように、言語実践の中にあるさまざまなレベルの人為的な介入を、すべて言語「政策」として扱う立場もある。しかし、これらの人為的な介入は、レベルによって異なる特徴をもち、その特徴に応じたとらえ方が必要である。

私たちの社会は民主的に選ばれた統治のメカニズムをもつ。そして、その統治のメカニズムは、税金に代表されるさまざまな資源（第 2 部第 3 章参照）を社会から集め、蓄え、社会共通の課題を解決するために用いる。社会の構成員である私たちには、統治機構が適切にはたらき、集めた資源を有効に用いているか、その結果、課題が有効に解決されたかを見とどける権利と義務がある。

しかし、個人や企業のレベルでの言語実践への人為的な介入を、国や自治体のレベルの言語政策と同じような関係でとらえることはできないだろう。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

できることが何なのか、次の政策決定の機会につながるような知見が何なのかを丹念に積み重ねることが、よりよい政策形成のためにも必要である。

● さらに学ぶための読書案内 ●

寺沢拓敬（2019）「小学校英語の政策過程（1）：外国語活動必修化をめぐる中教審関係部会の議論の分析」『関西学院大学社会学部紀要』132, 13–30.

小学校外国語活動の必修化をめぐる主要な論点の審議経緯やアクターの関わりについて政策過程の観点から分析する。

古石篤子・河原雅浩（2022）「神奈川県聴覚障がい児等手話言語獲得支援事業 ── 政策決定過程の分析」『言語政策』18, 127–143.

事例の特殊性や共通性という観点から、なぜ神奈川県の聴覚障害者向けの支援事業が実現に至ったのかを分析する。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

「敵意の言説」を分析し、対抗言説の可能性を探る

山本冴里

山本冴里（2013）「サイバースペースにおける排外的言説の構成 ── 留学生 30 万人計画に関する国会質疑の録画を起点として」『言語政策』9，21–42.

本論文の研究のねらいと特徴

本論文で私は、サイバースペースにおいて、排外的言説がどのように構成されているのかというテーマに取り組んだ。具体的には、インターネット上の動画共有サービス（「ニコニコ動画」）において、匿名者らのコメント 2000 件が、留学生受入れを意味づける公的な言説（国会発言）をどのように取りあげ、解釈し、話題を発展させていたのかを明らかにしようとした。もともと、動画上の国会発言自体には、取り立てて排外的とみなされ得る表現は含まれていなかったにもかかわらず、そこに付されたコメントで大量に排外的言説が生み出されていたのはなぜか。サイバースペース上の匿名者らは、国会発言をどのように利用して排外的言説を生み出していたのか。これらの問いに答え、対抗言説を生む可能性を探ることが、本論文の目的だった。

なお、「ニコニコ動画」にアクセスした視聴者が目にし、耳にするのは、挿入されたコメントの文字と動画の音声、映像の複合体である。その絡み合う総体をテキスト＝分析対象とみなし、解読に取り組んだ点に、本研究の特徴があると考える。

研究の方法

分析の方法は、フーコー派言説分析と呼ばれる手法を参考にした。具体的には、テキストにおいてどのような種類の言説が用いられていたのかを検討し、それぞれの種類の言説がどのように関係していたのかを検討した。そのうえで、コメントで頻繁に用いられていた「俺」（2000 件のコメントのなかで、一人称が用いられる際、それは常に「俺」であった）という一人称に注目し、「俺」が名指す呼びかけられた主体（対象）に注目することから、遡及的に、呼びかけた主体＝「俺」の位置取りを推定した。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

研究でわかったことと残された課題

「ニコニコ動画」に付されたコメントは、動画内に見られる国会発言の一部を引用しつつ混ぜ返したり、発言の枠組みを再利用したりしていたことが判明した。また、利用されていた言説の種類については、国会での発言がおおむね経済に関する言説（一部は外交戦略・国際貢献に関する言説）であったのに対して、コメントでは、性に関する言説、治安に関する言説、国粋主義の視点からの言説が加えられていたことがわかった。そして、そうした様々な種類の言説は、それぞれ独立して存在するのではなく、国粋主義の視点からの言説を中心に互いに深く結びついていることや、国粋主義の視点からの言説は（これは当然推定されることながら）容易に排外主義に結びついていくことも明らかになった。

また、コメントにおけるグルーピングから、遡及的に非「俺」たちに対して排斥的な「俺」たち（日本人・若者・経済的弱者）の構成が推定された。

対抗言説としては、二種類の可能性を提案した。ひとつは、土台となる言説（たとえば経済の言説）と同じ枠組みにそって、ひとつひとつ反論していくことである。もうひとつは、留学生政策と、そこに深く関わる日本語教育政策のための思想・哲学を持つことだ。これらはそのまま、残された課題でもある。

研究で苦労した点など

私のなかで、本論文と、山本冴里（2013）「日本発ポップカルチャーを巡って交錯する／せめぎあう境界――ルポルタージュ「日本マニアの幾つかの肖像」へのコメント分析」（『日本研究』47、国際日本文化研究センター、pp. 171–206）は、ふたご論文ということになっている。どちらも、サイバースペース上の動画と、そこに付された大量のコメントを分析したものである。そして、私が「敵意の言説」と呼ぶ、排外的言説や差別的・侮蔑的な言説が数多く含まれている。そうした言葉遣いに深く潜り込んで分析するうちに、ずぶずぶと気が滅入っていくのを抑えられなかった。だからその後、私はこうしたテーマから逃げてしまっているのかもしれない。もし誰かが引き継いでくれるのなら、いつでも相談には乗るのでぜひ、とは思っている。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers